

Press Release

## クルマを中心とした大人の趣味人が集う3日間 「AUTOMOBILE COUNCIL 2019」

- 協賛社・オフィシャルメディアが決定
- 主催者展示として、イタリアのカロツツェリアが生み出した  
'60～'70年代のイタリアン・スポーツカーの傑作3台を出展

AUTOMOBILE COUNCIL 2019 実行委員会

このほど、来る4月5日(金)～7日(日)の3日間、幕張メッセで開催する「AUTOMOBILE COUNCIL 2019」に支援いただく協賛社、および、「AUTOMOBILE COUNCIL 2019」の開催趣旨に賛同いただき、共に日本の自動車文化の創成を図っていくオフィシャルメディアとして、従来からのJ-WAVEに加えて、新たにTBSラジオ及び自動車情報専門Webメディア5サイトが決定しました。

また、AUTOMOBILE COUNCIL 2019 実行委員会では、本年の主催者展示として、「自動車を与える夢、自動車が持つタイムレスな美」をテーマに以下3台の車両を決定しました。

### ■協賛社(4社)

エンケイ株式会社、TREMEZZO CO.,LTD.、株式会社バーニーズ ジャパン、株式会社ブリヂストン

### ■オフィシャルメディア

- (1) オフィシャルラジオ J-Wave 81.3
- (2) オフィシャルサポートラジオ TBSラジオ
- (3) オフィシャルWeb webCG、カーセンサー、WEB CAR TOP、Auto Messe Web、Response

### ■主催者展示として本年は、イタリアのカロツツェリアが生み出した、'60年～'70年代のイタリアン・スポーツカーの傑作3台をフォーカスし展示

かつてイタリアの「カロツツェリア(※)」が新しい提案をフォルムに込め、競い合うように美しさを追求していた時代がありました。今回の主催者展示は、「自動車を与える夢、自動車が持つタイムレスな美」をテーマに、60年代から70年代にかけて生産されたイタリアン・スポーツカーの傑作、ランボルギーニ P400 ミウラ S (ベルトーネ)、マセラティ・ギブリ 4900 (ギア)、フェラーリ 365 GTB/4 デイトナ (ピニンファリーナ) の3台を展示致します。

#### ※カロツツェリアとは

自動車創成期のイタリアでは、顧客がメーカーから購入したエンジンとシャシーにボディを架装し、1台の車として完成する工房を意味した。メーカーの量産態勢が整うと共に、リッチな顧客の求めに応じて1台もしくは極めて生産台数を限定した美しいボディのデザイン、生産、架装を請け負い、'60年～'70年代にかけて最盛期を迎えた。

### ■出展者情報第2弾

先に発表した各出展者に加えて、サプライヤーに横浜ゴム株式会社、ヘリテージカー販売店に「ACマインズ」、「ヤナセ クラシックカー センター」、マルシェに「ケイズ」、「ピッコリーナ」、「ポストホビー」の6社の出展が決定しました。

この件に関する報道関係からの問い合わせ先

AUTOMOBILE COUNCIL 2019 広報事務局 担当：石川

Tel: 090-8940-1683/050-3419-7725 e-mail [press@automobile-council.com](mailto:press@automobile-council.com)

■主催者展示車両について



Lamborghini Miura P400S (C)CG Library

**ランボルギーニ・ミウラ P400 S**

**Lamborghini Miura P400S**

もともとフェラーリオーナーだった実業家フェルッチョ・ランボルギーニが、エンゾ・フェラーリに謁見した際の彼の態度に腹を立て、跳ね馬に対抗すべく興したのがアウトモビリ・ランボルギーニである。唯一にして最大の仮想敵であったフェラーリが、創業者の意志を汲んで保守的なフロントエンジン/リアドライブに固執するのをよそに、レーシングカー並みに進歩的

なミッドエンジン・レイアウトを採用。コクピット背後に積まれるV12ユニットは横置きされるという懲りようだった。先鋭的かつ流麗なデザインはカロツツェリア・ベルトーネが担当。ヌッチョ・ベルトーネの指示で原案を仕上げたのは当時ベルトーネのチーフだった若き日のジウジアーロ。生産型に仕上げたのは後任におさまったマルチェロ・ガンディーニだと言われている。若き日のイタリアン・オールスターズが仕上げたマイルストーン的1台である。



Maserati Ghibli (C)CG Library

**マセラティ・ギブリ Maserati Ghibli**

若き天才ジウジアーロがカロツツェリア・ギア在籍時に仕上げた傑作中の傑作がマセラティ・ギブリ。マセラティは、1910年代に産声をあげ、戦前戦後を問わずレースで好成績挙げ続けた名門中の名門。1963年誕生のランボルギーニは言うに及ばず、1947年を創業年に定めたフェラーリより明らかに老舗の名門ブランド。それ故ギブリは一過性の流行に惑わされず

クラシカルな佇まいを備えているが、古臭く見えないだけでなく、タイムレスな美を湛えている。長いフロントノーズ下に搭載されたパワーユニットはV8。V12でもミッドエンジンでもないが、デビュー当時ミウラと世界最速を争った。フェラーリがモードだとするならマセラティはクラシコ。ギブリもその典型といえ、パッと目をひく派手さはないが、控えめを旨とする美学に貫かれている。



Ferrari 365GTB/4 Daytona (C)CG Library

**フェラーリ 365GTB/4“デイトナ”**

**Ferrari 365GTB/4“Daytona”**

エンゾ・フェラーリ存命中にマラネロが生み出した最後のフロントエンジンV12シーターがこのデイトナ。ランボルギーニやマセラティ、イソ等に奪われていた世界最速の座を取り戻すために投入されたモデル。新車当時にロードテストを実施した英「Autocar」誌によればこのカバリノー・ランパンテは実測280km/hをマーク。見事

世界最速の座を奪還した。どこから見ても美しい均整の取れたプロポーションを実現したのはピニンファリーナ。チーフだったレオナルド・フィオラバンティによるものだ。モダン・フェラーリ基礎となった史上最も美しいフロントエンジン・スポーツカーの1台である。